MATSUMOTO SEICHO MEMORIAL MUSEUM
松本清張記念館
特集号
2024.3

令和5年度 中高生読書感想文コンクール

感想文紹介

最優秀賞

題

耕作の生きざまに学ぶ幸福のかたち
～「或る『小倉日記』伝」を読んで～

課題作品

「或る『小倉日記』伝」

内田（うちだ） 博仁（はくと）
神奈川県立あおば支援学校
中学部 3年

人は何か人の役に立ちたい、向上したいと思った瞬間に生きる目的や生きる喜びを感じるのではないだろうか。幼い頃から障がいのため周りの人に憐れみや偏見の目で見られていた耕作。そんな耕作が人生で何か一つでも成し遂げたいと決意した気持ちが僕は痛いほど分かるのだ。何故なら僕自身自閉症という障がいを持っていて耕作のように周りからいつも奇異な目で見られて生きてきたからである。しかし僕は障がいがあっても心の中にはたくさんの言葉や豊かな世界を持っていた。そしてその世界はいつも世の中への興味や未来への情熱で溢れていた。だから耕作の決意に自分ごとのように共に喜び共感し、引きこまれるように夢中で読み進めていった。

耕作は「誰が見ても白痴のように思えた。が、実際は級中のどの子よりもよくできた」のである。耕作はきっとその優秀な知性、その隠れた情熱を傾ける何かを日々探していたのではないだろうか。何故なら僕自身も日々劣等感や孤独感と向き合いながらも陰で毎日かかさず勉強し、話し言葉では表現出来ない溢れる思いを毎日文章で綴り、僕も何か人の役に立てる存在になりたいという目標を秘かに持っていたからだ。耕作も秘めた情熱を持っていたのではないだろうか。それに火をつけたきっかけが、友人江南に借りた森鷗外の『独身』の中の文章との出会いだったのだろう。耕作は「一生これと取りくむのだと決めた」のだ。耕作がずっと探し求めていた何か、自分のこの溢れる情熱を傾ける何か、失われた小倉日記を埋めてもし自分が完成させたなら耕作も世の中の役に立てるのだ。ずっと自分は小さくなって人に後ろ指を刺されながら生きていくしかないと思っていたが、もう人に頼らず自らの意志で志をもって生きてゆくのだと決意した瞬間だったのではないだろうか。耕作にとって真の意味で自立への道が開けた瞬間だったのだろう。

さてそれから耕作は鷗外が小倉時代に関わった人物を一人一人訪ね歩く。その道程はやはり簡単ではなかったのだ。耕作の様子を見て「唖か阿呆を見るように」適当にあしらう人もいた。そんな耕作を陰で支えサポートしたのが母親のふじであった。僕は母親の耕作への献身的で無償の愛に胸が熱くなった。何故なら僕自身母の献身的なサポートがなければここまで辿り着けなかったことを身に染みて分かっているからだ。母の愛に勝るものはない。そして母ほど自分の全てを信じぬいてくれる存在はいない。耕作にも僕にも母はもう一体になった存在なのだ。

そんな母親の愛や友人江南の励ましを受けながら取材を続ける耕作であったが、時に何のために自分はこんなに努力しているのだろうかと「たちまち希望は消え絶望感が襲ってくることもあった」という。実際人は何のために

←

生きているのだろう。僕は自閉症という障がいのため全く話すことが出来ない。人の役にも立てない僕はいっそ死んだほうがましなのではないかと思ったこともある。しかしどんな人間も夢を持つことは出来るのだ。たとえ障がいがあろうとも努力し勉強し内面を磨けば生きている充実感と喜びも生まれる。僕はこのことに気付いた時から生きる意味を見つけた。さらに耕作にも僕にも誰よりも努力を重ねるという才能がある。劣等感や孤独感で培われた誰にも負けない闘志や情熱をその内側に持っている。劣等感も孤独感も跳ね飛ばすくらいの目標を持ち歩んでいる瞬間こそ、その道のりこそ生きる喜びではないか。僕は耕作が苦労して取材している姿からそんな生きる美しさを感じたのだ。

戦争が始まり食糧不足もあり衰弱した耕作が死ぬ間際「鈴の音が聞こえる」

と言った。鷗外と運命的に出会わせてくれた、幼い頃毎夜聴いたでんびんやの鈴の音を聴きながら耕作はどんな気持ちでこの世を去ったのだろうか。はたして耕作の人生は悲しい人生であったろうか。僕には耕作が真剣に一つの目標に向かいひたむきに取りくむその生きざまが、深く豊かな美しい人生であったようにしか思えないのだ。なぜなら人は生涯をかけて情熱を持って向き合えるものに出会えたのなら、それだけで人生の幸福感や生きがいを得られたも同然だと思うからだ。耕作はそれを得ることが出来たのだ。たとえ障がいがあろうとも、自らの意志で自らの人生を切り開いてゆけたのだ。耕作も僕も充分な話し言葉がなくとも誰よりも努力し学び、懸命に日々を生きたならば豊かで充実した人生を過ごせる。僕のような人間でも少しでも人の役に立てる、夢だって持てる。それを耕作の生きざまが、そして耕作の生きざまをこのように描ききった作者松本清張さんが僕に伝え教えてくれたのだ。この「或る『小倉日記』伝」を読んで僕は自分の障がいにひるむことなく自分の意志をもって、自分のこの生きざまに誇りをもって人生を歩んでいきたいと強く思った。それが人より大変な道だとしても道の向こうにある夢、光をただ一心に目指して誰よりも懸命に努力していきたい。それこそが、その過程こそが実は幸福であるとこの作品に教わったからだ。

優秀賞（中学生の部）

題

二つの要素

課題作品

「点と線」

鍋島（なべしま） 礼樹（りき）

筑波大学附属中学校
1年

一瞬、呆然とした。まさか安田の妻が実行犯だなんて。あんなにしっかりとアリバイが書かれていたのに。さっぱり僕は想像できなかった。

僕が最初に推理小説にハマったのは小学三年生のころ。アガサクリスティーの「ＡＢＣ殺人事件」を読んだ時のこと。それ以来、クリスティーのポアロシリーズは九割方読んだ。そうなってくると、読む本がなくなってくる。さてどうしたものかと書店に行き手に取ったのが「点と線」だった。鮮やかなアリバイ破りと宣伝されていたのを見たため、手に取ってみたのだ。すると引き込まれていく、引き込まれていく。買ったその日に読み終わってしまった。しかしその時はカラクリが正直言ってよくわからなかった。先へ先へと斜め読みに近い形で読んでいたからだ。だがこうして読書感想文を書くにあたって読み直しているとすっと頭に入ってきた、わけでもない。そこで安田、安田の妻、お時、佐山の動きを紙にまとめてみた。こうして改めて四人の動きを見てみると、感動してくる。特に安田のアリバイ作り。四分間の隙間を狙い目撃者を作り、あえて待合室に迎えをまたしておく。よくこんなことを思いつくなとただただ感心するばかりである。まあ実際に考えたのは亮子だが。そして同時に思うのは特急が遅いこと。博多まで半日以上かかる。でも逆にだからこそできる犯罪でもある。東京から一日かけて電車で行く札幌、飛行機なら三時間、この差は一体なに？現代の僕からしたらそう思う。今でいう電気自動車と電動キックボードの違いのようなものか。でも逆にこういった古さがこの物語に重厚な雰囲気を与えていると思う。でもこうしたアリバイ、すべて考えたのは安田亮子だとにおわせている。普通に時刻表を見ていてもこんな風に四分間を使おうとは思わないだろう。そのあたりからも亮子のお時に対する憎悪が伝わってきてぞっとする。

僕はこの本を買って以来松本清張の本を続けざまに買っている。「わるいやつら」「砂の器」「ゼロの焦点」などだ。これらの共通した面白さはずばり、わかりそうでわからないアリバイの穴と単純そうに見えて恐ろしく奥が深い動機。そこには憎しみ、利害、怒りな

どが複雑に絡み合っている。これこそが松本清張作品の醍醐味だと思う。特にアリバイ構築がこの本では素晴らしいと思う。僕が人生で読んできた（十三年しかないが）推理小説の中で一番アッと驚き深く感動したアリバイだった。ここまでしっかりと作中に書いてありながらさっぱり真実がわからないアリバイは初めてだった。その時の感動は筆舌に尽くしがたい。それ以来松本清張という名は自分の中で一筋の強烈な光を放ち続けている。

そしてもう一つ複雑な動機。これはなんだか社会の壮絶な裏を見たような気が「点と線」に限らずするのである。汚職と夫婦関係の一見あまり関わりなさそうな二つの事柄、これが密接に関わり合い、もはや誰が協力し誰を化かしているのかわからない。

この二つの要素が松本清張という作家を確固たるものにしていると僕は強く思っている。そしてこの二つの要素が僕を惹きつけてやまないのである。だからこそこれからも松本清張の作品を読んでいきたいと思うのである。

優秀賞（高校生の部）

該当なし

第22回目となる令和5年度の読書感想文コンクールには、全国から272点の応募がありました。令和5年11月17日の最終選考で受賞者が決定し、最優秀賞については令和6年2月24日に松本清張記念館で表彰式を行いました。

選考委員紹介

（五十音順、敬称略）

田中 光子
株式会社文藝春秋
「文學界」編集部編集委員

十重田 裕一
早稲田大学文学学術院教授
早稲田大学国際文学館長

藤井 康栄
松本清張記念館名誉館長

審査講評

選考委員　**田中 光子**

今年の課題図書は『点と線』『或る「小倉日記」伝』『地方紙を買う女』の三作品。どれを選ぶか、という選択からも筆者の人柄が伝わってくる。

『或る「小倉日記」伝』を読んで内田博仁さん（神奈川県立あおば支援学校中学部三年）さんは「自分のこの生きざまに誇りをもって人生を歩んでいきたいと強く思った」と書く。田上耕作が他界したのちに森鷗外の『小倉日記』が発見されたことを「不幸か幸福か分らない」と記して松本清張は小説を結ぶが、内田さんは「僕には耕作が真剣に一つの目標に向かいひたむきに取りくむその生きざまが、深く豊かな美しい人生であったようにしか思えないのだ」と力強く肯定する。清張作品と出会い、自身の心の声に耳を傾けながらその感動を明晰に文章にしたすぐれた感想文で、最優秀賞となった。おめでとうございます。

『点と線』を選んだ鍋島礼樹さん（筑波大学附属中学校一年）は、小学生の頃から推理小説の愛読者で、『点と線』の登場人物たちの動きを紙にまとめて整理しながら分析する。次々と清張ミステリーを読破していく様子も頼もしい。「憎しみ、利害、怒りなどが複雑に絡み合っている。これこそが松本清張作品の醍醐味だと思う」と清張作品の特色を的確に捉えると同時に、「社会の壮絶な裏を見たような気が」する、とも看破している。今後も清張作品に親しみながら、組織が大きな悪事を犯すとき、一個人がいわれなき罪をかぶせられる、という点にも注目してみてください。

『地方紙を買う女』では、清藤そらさん（鎌倉学園高校一年）の「なぜ人は罪を犯すのだろうか」という大きな問いに挑みながら法律を学ぶ決意を語った感想文、澤田裕翔さん（埼玉県立川口北高校三年）の人間のもつ悪意を「イースト菌」にたとえる感想文に個性と魅力があった。今年も多数のご応募ありがとうございました。

佳作

中学生の部

福山 遥（ふくやま はるか）
筑波大学附属中学校 3年
題 景色が語る点と線
（点と線）

大槻 実緒（おおつき みお）
白百合学園中学校 2年
題 時刻表の旅
（点と線）

志村 由梨（しむら ゆり）
筑波大学附属中学校 2年
題 彼の『小倉日記』があたえたもの、あたえられたもの
（或る『小倉日記』伝）

徳永 絢音（とくなが あやね）
筑波大学附属中学校 2年
題 点と線の先
（点と線）

小西 希名（こにし きいな）
北九州市立引野中学校 2年
題 思考の探求
（点と線）

神田 晴花（かんだ はるか）
日本女子大学附属中学校 2年
題 私にとっての「生きる意味」
（或る『小倉日記』伝）

高校生の部

清藤 そら（きよふじ）
鎌倉学園高等学校 1年
題 僕のめざす道
（地方紙を買う女）

澤田 裕翔（さわだ ゆうと）
埼玉県立川口北高等学校 3年
題 イースト菌と悪意の由来
（地方紙を買う女）

今井 陸斗（いまい りくと）
福岡県立筑紫丘高等学校 1年
題 想像力と好奇心
（点と線）

竹山 紗由（たけやま さゆ）
愛知県立旭野高等学校 1年
題 依存の先にあるもの
（地方紙を買う女）

古屋敷 紀香（こやしき のりか）
福岡県立小倉西高等学校 1年
題 「或る『小倉日記』伝」を読んで
（或る『小倉日記』伝）

片野 友結（かたの ゆい）
福岡県立小倉西高等学校 1年
題 「地方紙を買う女」を読んで
（地方紙を買う女）

令和6年度 中学生・高校生 読書感想文コンクール

若年層に清張作品に親しんでもらうとともに、表現力を学び、豊かな心を育む契機となればという思いから始まりました。新時代を切り開く若者達へ、探求の人・松本清張の精神の伝達を働きかけるものです。

■応募対象　全国の中学生・高校生

■課題図書　中学生・高校生ともに下記から一作品

「遠い接近」（『遠い接近』文春文庫）

「共犯者」（『共犯者』新潮文庫、『松本清張傑作短篇コレクション〈中〉』文春文庫）

「左の腕」（『佐渡流人行』新潮文庫）

■応募方法

中学生、高校生ともに1,200 ～ 2,000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。
手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるよう応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。
原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募用紙はお返しいたしませんので、必要な人はコピーをおとりください。

■応募の注意

- 参考にした文献や出典を明記し、引用文は「　」で囲むなどわかるように表記してください。
- AIによる生成物を自己の成果物として応募・提出することは不適切または不正な行為です。

※詳しくは文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」をご参照ください。
https://www.mext.go.jp/content/20230710-mxt_shuukyo02-000030823_003.pdf

■応募締切　令和6年9月30日（月）※当日消印有効

■選　　考　松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

■発　　表

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11月中旬頃、本人と学校に通知し後日表彰式を行います。
なお、入選の結果は、当館発行の「館報」およびHPで発表します。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

■賞　　品（受賞人数等変更の場合もあります。）

○最優秀賞（1名）
○優秀賞（中学の部…1名）（高校の部…1名）
○佳　作（中学の部…3名）（高校の部…3名）

※最優秀賞は中学の部、高校の部で各1回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は〈特別賞〉として当館発行の「館報」掲載を予定しています。

● 応募先・問い合わせ ●
松本清張記念館　読書感想文コンクール係
※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

イラスト：山藤　章二

編集・発行
松本清張記念館
〒803-0813
北九州市小倉北区城内2番3号
TEL 093 (582) 2761
FAX 093 (562) 2303
https://www.seicho-mm.jp
制作 （株）エディックス

- 開館時間　午前9:30～午後6:00（入館は午後5:30まで）
- 休 館 日　毎週月曜日（休日の場合は翌日）、年末年始（12/29～1/3）、館内整理日
- 観 覧 料　一　般／600円（480円）　中・高生／360円（280円）　小学生／240円（190円）　※（　）は30人以上の団体
- アクセス　JR：小倉駅から徒歩15分　西小倉駅から徒歩5分
  小倉駅からバスをご利用いただくと便利です（小倉城・松本清張記念館前下車）
  車：北九州都市高速 大手町ランプより5分